

平成30年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（深島・屋形島）

1. 集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：深島・屋形島

協定締結集落名：深島・屋形島漁業集落

交付金額：1,675千円

(1) 基本交付金：1,675千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：11世帯、18人（うち漁業世帯11世帯、18人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入（直近3年平均）3,507,225円

集落の平均漁業者所得 527,732円（平成29年）

2. 協定締結の経緯

大分県の南東端に位置する佐伯市深島・屋形島周辺の海域は、起伏の多い天然礁や、大小無数の岩礁が形成されており、海流は瀬戸内海の低温水と黒潮から流入する高温水とが混合流となることにより栄養豊富な海域となっている。地元漁業者は、このような良好な自然環境に恵まれた漁場を利用して、巻き網漁業、一本釣り漁業、刺し網、緋扇貝・イワガキ養殖などを営んでいる。しかしながら漁業が基幹産業である本地区においても、漁業者の減少や高齢化、水産資源の減少などにより漁獲量は減少傾向にある。このまま放置すれば本地区の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も低下する可能性がある。

このため、本地区における漁業を維持・再生させていくことが重要であり、漁場の再生に関する集落での話し合いを通じて、漁場の生産力の向上に関する取り組みや、漁場の再生に向けた新たな取り組みを実践的に取り組める環境を整えるため、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動を実施することとした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

○人工産卵礁の設置や放流効果等の調査を行うことにより、資源の増殖を図った。

活動内容		実施日	参加人数	経費（円）
漁場の維持管理	アサリ種苗放流効果調査	3月11日、12日	11人	75,000
産卵場・育成場の整備	人工産卵礁設置（雑木）	7月25日、27日	10人	86,900
	人工産卵礁設置（貝殻くん）	3月26日	5人	791,280

②漁業の再生に関する実践的な取組の実施

○新規漁業の着業に向け、天然種苗の採苗試験において状況調査を実施した。

活動内容		実施日	参加人数	経費（円）
新規漁業の 着業	ヒメアサリ天然 採苗試験	1月28日	3人	25,000
	ウナギの 養殖試験施設 設置作業	2月8日、3月8日、18日	7人	523,768

4. 取組の成果

漁場の生産力の向上に関する取組状況

①漁場の維持管理の取組として、アサリ種苗放流効果調査を実施した。調査の結果、自生種のヒメアサリが多くみられ、放流物のアサリはあまり育っていなかったことが分かった。結果を踏まえ、今後の放流事業を行うかどうかの指標とするとともに、放流を行うのであれば、育ちやすいポイントに重点的に撒くようにする。

また、産卵場・育成場の整備では、今年度も人口産卵礁の設置を行った。



アサリ種苗放流効果調査(深島)
(H31. 3. 11)



アサリ種苗放流効果調査(屋形島)
(H31. 3. 12)



人工産卵礁（雑木）設置(深島)
(H30. 7. 25)



人工産卵礁（雑木）設置(屋形島)
(H30. 7. 27)



人工産卵礁(海藻くん)設置(屋形島)
(H31. 3. 26)

漁業の再生に関する実践的な取組の実施

②新規漁業の着業として、ヒメアサリの天然採苗試験を実施した。

また、ウミブドウの試験養殖を次年度以降実施するために、ビニールハウス及び簡易水槽の設置・製作作業を行った。



ヒメアサリ天然採苗試験(深島)
(H31. 1. 28)



ウミブドウ養殖調査(深島)
(H31. 2. 8)



ウミブドウ養殖試験
施設設置作業(深島)
(H31. 3. 8～)